

# 家 庭

## 1 教育課程の編成

### (1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

共通教科としての家庭科においては、「家庭基礎」（2単位）及び「家庭総合」（4単位）の2科目から、生徒の多様な能力、適性、興味・関心等に応じて必履修科目として1科目を選択的に履修させることとする。

「家庭基礎」は、原則として、同一年次で2単位を履修させ、実験・実習などの実践的・体験的な学習活動を通して科目の目標を達成することができるよう配慮し、指導の効果を高めることが必要である。

「家庭総合」は、複数の年次にわたって分割して履修させる場合には、例えば、第1学年と第2学年で2単位ずつの分割履修をさせるなど、連続する年次において履修させ、実験・実習などの実践的・体験的な学習活動を通して科目の目標を達成することができるよう配慮し、内容の関連性や系統性に留意して指導の効果を高めることが必要である。

### (2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

「C 持続可能な消費生活・環境」については、平成30年6月の民法の改正により令和4年（2022年）4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、入学年次またはその次の年次までにその内容を履修させる必要がある。

### (3) 特色ある教育課程の編成

学校においては、生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じて特色ある教育課程に資するよう、学校設定科目を設けることができる。ただし、家庭科において、学校設定科目の設置を検討する際には、専門教科「家庭」の科目でほとんどの学習内容が網羅できると考えられることから、いたずらに学校設定科目を設置するのではなく、専門教科「家庭」の科目から設置する科目を選ぶなどの工夫が必要である。なお、専門教科「家庭」に属する科目については、生活産業に関する各分野に対応して、通常履修される教育内容などを想定して、21科目が示されている。

## 2 指導計画の作成と内容の取扱い

### (1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

指導計画作成に当たっては、次の4点についての配慮をする必要がある。

体験活動の充実	「家庭基礎」「家庭総合」の総授業時数のうち、原則10分の5以上を実験・実習に配当する。実験・実習には、調査・研究、観察・見学、就業体験活動、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流活動、消費生活演習などの学習活動を含む。
地域や関係機関等との連携及び外部人材の活用	地域や関係機関等との連携や交流などの実感を伴った学習を通して、知識や技能の定着を図り、主体的に考察できるようにする。

障がい等への配慮	作品製作時において、完成までの過程を、写真やイラスト、実物や標本などを用いて、具体的に示すとともに、実習時における全体指導後の個別指導を行う。
他教科との連携	中学校技術・家庭科、高等学校公民科、数学科、理科、保健体育科などとの関連を図るとともに、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を通して理解できるよう配慮し、全体として調和のとれた指導が行われるよう留意する。

## (2) 内容の取扱いに当たっての配慮事項

### ア ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の位置付け

家庭科においては、生徒が家庭科の学習を生かして、各自の家庭生活や地域の生活と結びつけて生活上の問題を見だし、解決方法を考え、計画を立てて実践できるように工夫するなどして、問題発見・解決能力の育成を図ることが重要である。指導に当たっては、内容AからCまでの学習と「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との関連を図り、学習効果を上げるようにするとともに、計画的、系統的に取り扱うよう、指導計画に位置付けることが必要である。

**[point]**  
各科目の導入に「生涯の生活設計」を位置付け内容のAからCまでの内容と関連付けること

家庭基礎	家庭総合
A 人の一生と家族・家庭及び福祉	A 人の一生と家族・家庭及び福祉
B 衣食住の生活の自立と設計	B 衣食住の生活の科学と文化
C 持続可能な消費生活・環境	C 持続可能な消費生活・環境
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

### イ 言語活動の充実

生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する場面を設定するなど、言語の能力を高める学習活動の充実が必要である。家庭科における言語活動は次のようなものが考えられる。

- ・ 様々な人々との触れ合い、他者と関わる力を高める活動
- ・ 衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動
- ・ 判断が必要な場面を設け、理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動

### ウ 食生活分野の充実

食に関する指導は、生活全体の中での食生活の営みという視点を特徴としていることから、生徒の日常生活との関連を図り、より実践的に指導することが重要である。

また、義務教育段階までの学習内容を十分把握した上で、生涯を見通した食生活を営む力を育むために、栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解し、食文化に関心をもつとともに、必要な知識と技能を習得し、環境に配慮した健康で安全な食生活を営む力を身に付けることができるよう、指導を工夫することが重要である。

### エ ICT機器の活用

家庭科におけるICT機器の活用については、生活に関わる外部の様々な情報を収集することや、データの整理などにおいてコンピュータや情報通信ネットワークなどを

積極的に活用し、学習の効果を高めるよう工夫する必要がある。

#### オ 実験・実習における留意事項

実験・実習を行うに当たっては、関連する法規等に従い、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する必要がある。

また、実習時においては、様々な感染症に対する予防対策を講じる必要があることから、各学校には、きめ細やかな対応が求められている。

感染予防対策の具体例は次の通りである。

- ・ 手洗い、換気の励行、身体的距離の確保を行うこと
- ・ できるだけ個人の教材教具を使用し、生徒同士の貸し借りはしないこと
- ・ 器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行わせること

#### (3)単元の指導計画作成上の留意点

単元の内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る必要がある。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解させるとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図るように留意する必要がある。

##### 「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

家庭科は、人の生活の営みに係る様々な生活事象を学習対象としており、その目標は、生徒が生活の主体として生涯にわたって自立し、共に生きる生活を創造する資質・能力を育成することである。したがって、内容のAからCまでに関係する知識と技能を習得するのみにとどまらず、生活を総合的に把握し実践する力を身に付ける必要がある。そのため、複雑な生活事象を見通すための視点が設けられている。

##### 「複雑な生活事象を見通すための4つの視点」

- ①協力・協働
- ②健康・快適・安全
- ③生活文化の継承・創造
- ④持続可能な社会の構築

##### 【point】

取り上げる内容や、題材構成によって、どの視点を重視するか適切に定めること

#### ◆ 単元の指導計画

家庭基礎における「C 持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画」の単元の指導計画を示す。持続可能な社会を見通して、自立した生活を営むために必要な生活における経済の計画や消費生活及び環境の関わり等に関する理解を深めるため、家族・家庭や福祉、衣食住等の内容と相互に関連付けながら、環境に配慮して持続可能な社会を

目指したライフスタイルと生涯を見通した生活設計について考察させている。

単元名 (学習項目)	C 持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画 (4時間)		
学習のねらい	生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済の関わりについて理解するとともに、収入と支出のバランスの重要性やリスク管理の必要性を踏まえた上で、将来にわたる不測の事態に備えた経済計画についても考察できるようにする。		
評価の観点	知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む 態度 【主】
評価規準	生涯を見通した経済計画及び持続可能な社会を目指すことの重要性について理解し、消費行動に必要な情報を収集・整理することができる。	消費生活についての課題を見だし、具体的な対応をまとめたり、表現している。	生涯を見通した家計管理の在り方について考え、持続可能な社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
次程	学習内容と留意事項		評価の観点
			知 思 主
	第1次 (1時間)	<b>【学習内容】</b> 可処分所得や非消費支出の分析など具体的な事例を通して、家計の構造を理解するとともに、家庭経済と国民経済との関わりなど経済循環における家計の位置付けとその役割の重要性について理解する。 <b>【留意事項】</b> 家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、様々なリスクへの対応が必要であることを取り上げ、基本的な金融商品の特徴、資産形成の視点にも触れるようにすること。	○
	第2次 (2時間)	<b>【学習内容】</b> 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生涯の賃金や働き方、社会保障制度などと関連付けながら考える。 <b>【留意事項】</b> 可処分所得や非消費支出など家計の構造や収支のバランスについて扱った上で、高校卒業後の進路や職業も含めた生活設計に基づいて、具体的にシミュレーションすること。	○ ○
第3次 (1時間)	<b>【学習内容】</b> 将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクや、年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考える。 <b>【留意事項】</b> 家計管理や生涯を見通した経済計画を考察する際に、ライフステージに応じた住生活や適切な住居の計画において、住宅ローンに関する費用と関連付けるなど具体的な事例を用いること。	○ ○	

【point】各学校の教育目標の実現を目指して、指導の目標を関連付けるなど留意すること。

【point】家族・家庭や福祉、衣食住等の内容と相互に関連付ける工夫

### 3 主体的・対話的で深い学びの実践例

家庭基礎の年間指導計画と生活課題の解決に主体的に取り組む資質・能力を育むよう

に工夫した、「A 人の一生と家族・家庭、福祉」における、単元の指導計画及び1単位時間の指導計画例を示す。

(1) 年間指導計画

学	月	指導項目	学習のねらい	時	留意事項
前期	4	・オリエンテーション D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・自己の家庭生活の課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決能力を身に付けさせる。	6	・Dはその意義と実施方法を理解させ、各単元の発展として扱うこと。
	5	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 【本単元】	・人の一生について生涯発達の視点で捉え、様々な生き方を理解するとともに、自分の目指すライフサイクルを実現するために、生涯を見通した生活を設計することができるようにする。	20	・ワーク・ライフ・バランスを図ることの重要性について話し合わせたり、生活設計を具体化するための情報の集め方などについて考えさせる機会とすること。 ・ICT機器を活用するなどして、自分が目指すライフスタイルに近い人物の生き方を調べるなど工夫をすること。
	6	(2) 青年期の自立と家族・家庭	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解し、家族や家庭の在り方について考えさせる。		
	7	(3) 子供の生活と保育	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供の育つ環境について理解させる。		
	7	(4) 高齢期の生活と福祉 (5) 共生社会と福祉	・高齢者の心身の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解させる。 ・社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、家庭や地域及び社会の生活を創造していく上での課題について考察させる。		
		D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクトの立案をさせる。	1	・夏季休業中に各自が実施し、まとめる。
後期	8	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・成果を発表し、次の課題に繋げさせる。	2	
	9	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定	・家計管理の重要性や家計と経済について理解させる。 ・基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生涯を見通した消費生活を営めるようにさせる。	12	・消費行動は、家族・保育・福祉や衣食住すべてに関わるものであることを意識し、題材を工夫すること。 ・国際連合が定めた持続可能な開発目標(SDGs)について取り上げること。
	10	(3) 持続可能なライフサイクルと環境	・自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、地球環境保全に貢献できるライフスタイルを工夫する。		
	11	B 衣食住の生活の自立と設計 (2) 衣生活と健康  (1) 食生活と健康	・基礎的・基本的な知識と技術を習得し、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営めるようにさせる。 ・基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生涯を見通した食生活を営めるようにさせる。	13	・ライフステージ、ライフサイクルに応じた被服の計画・管理を目指したり、自己と家族の衣生活についての問題を見出せるよう工夫すること。
	12	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・グループでこれまでの活動を共有し、生活課題を見出し、改善策を探らせる。	2	
	1	B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康	・生活と環境の関わりについて理解し、ライフスタイルを工夫し、主体的に行動させる。	14	・調理実習を行う際は、地域の食材を活用するなどの工夫をすること。 ・避難所運営ゲーム「Hug」などを活用し、防災に関する意識の高揚を図ること。
	2	(3) 住生活と住環境	・基礎的・基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活が営めるようにさせる。		
3		・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもってともに支え合って生活することへの重要性について認識させる。			

生徒の状況などに応じて年間指導計画の中で、指導の順序を変更するなどの工夫をする

## (2) 単元の指導計画

今回の学習指導要領の改訂においては、家庭科の特質である実践的・体験的な学習活動を充実させることを目標の柱書きに位置付け、明確にしている。家庭科の学習は、生活の中から生徒自身が見いだした問題について、その解決を図る過程を重視していることから、生涯の生活設計を本科目の導入として位置付け、各内容と関連付けて扱うとともに、人の一生を時間軸及び空間軸で捉えることができるよう指導を工夫することが大切である。

単元名 (学習項目)	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 (5時間)			
学習のねらい	人の一生について生涯発達の視点で捉え、様々な生き方を理解するとともに、自分の目指すライフサイクルを実現するために、生涯を見通した生活を設計することができるようにする。			
評価の観点	関心・意欲・態度 【関】	思考・判断・表現 【思】	技能 【技】	知識・理解 【知】
評価規準	家庭や家庭生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、青年期の生き方、家族や家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりなどに関心をもち、男女が協力して家庭を築くという視点から主体的に学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から、青年期の課題や家族と社会との関わりについての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	事例研究などを通し、家庭や家庭生活の在り方などについて検討するための技能を身に付けている。	生涯発達の視点から、青年期の課題、家族・家庭の関わりなどについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身に付けている。
次程	学習内容と留意事項			評価の観点
				関 思 技 知
第1次 (1時間扱)	<b>【学習内容】</b> 生涯発達の視点に立って、乳幼児期から高齢期の各ライフステージの特徴と課題を見通し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくことについて考察し、事例研究などに必要な資料を収集することができる。 <b>【留意事項】</b> 各ライフステージの特徴等と関連付けて生活設計を立案できるようにする。より豊かな衣食住を営むための知識と技能を身に付けることが、生活設計の基礎となることを理解させること。			○ ○
第2次 (2時間扱)	<b>【学習内容】</b> 男女が協力して家庭を築くという視点から主体的に学習に取り組み、人生における課題を乗り越える際に、誰もが同じような方法や選択で達成するのではなく、その時の身近な他者や社会との関わりを通して一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解する。 <b>【留意事項】</b> ライフイベントを扱う際には、目標や課題を認識できるよう、単なるライフイベントの羅列に終わらないようにすること。			○ ○
第3次 (2時間扱)	<b>【学習内容】</b> 職業選択や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの具体的な事例を取り上げ、よりよく生きるための課題解決について主体的に取り組み、生活設計の工夫について考察する。 <b>【留意事項】</b> ワーク・ライフ・バランスを図ることの重要性について話し合わせたり、将来就きたい仕事について調査をしたりするなど、情報の集め方についても考えることができるようにすること。			○ ○

【実践事例】  
2時間目が該当

(3) 第3次の2時間目の指導と評価の計画

1 本時の目標																			
(1) 固定的性別役割分業意識を見直し、生活課題の解決に主体的に取り組むことができる。																			
(2) 自己や他者のワーク・ライフ・バランスについて考えを深め、生活設計を工夫する方法について考察できる。																			
2 本時の展開 (全5時間予定の4、5時間目)																			
過程	学習内容	形態	生徒の学習活動	指導上の留意点															
導入	本時の目標確認	一斉	・自分の理想とするワークライフバランスについて振り返る <ワークシート等の例1> ・本時の目標と学習内容を確認する	・本時の目標と学習内容を理解することで、見通しを持たせる															
展開	家庭生活のスケジュールリング	ペア	<b>【学びの重点化】</b> 事前に家庭学習で、教科書やプリント、ICT教材などを活用することでスケジュール作成に必要な知識・理解を深め、授業内ではペアワークを中心とした気付けや課題の共有・解決に重点を置く																
			<b>【夫婦で暮らす】互いを尊重するワークライフバランスは？</b>																
			① 下記のべ資料による夫婦の1日のスケジュール設計にペアで取り組む	・隣同士でペアを組ませる(男女は問わないが、役割分担はさせる)															
			<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">夫</td> <td style="text-align: center;">妻</td> </tr> <tr> <td>勤務時間</td> <td style="text-align: center;">8:00~17:00</td> <td style="text-align: center;">9:00~18:00</td> </tr> <tr> <td>通勤時間</td> <td style="text-align: center;">車で10分</td> <td style="text-align: center;">公共交通機関+徒歩 40分</td> </tr> <tr> <td>生活に必要な事柄</td> <td colspan="2">就寝(起床)、料理・食事、仕事、掃除、洗濯、買い物、身の回りのこと、自由時間など</td> </tr> <tr> <td>その他情報</td> <td colspan="2">・自宅は3LDKのマンション5階(14階建) ・徒歩10分圏内に商業施設あり(スーパー、ドラッグストア等) ・夫婦の休みが合うのは日曜日だけ</td> </tr> <tr> <td>検討事項</td> <td colspan="2">家事分担・必要な事柄を済ませるための時間・休日の過ごし方 等</td> </tr> </table>		夫	妻	勤務時間	8:00~17:00	9:00~18:00	通勤時間	車で10分	公共交通機関+徒歩 40分	生活に必要な事柄	就寝(起床)、料理・食事、仕事、掃除、洗濯、買い物、身の回りのこと、自由時間など		その他情報	・自宅は3LDKのマンション5階(14階建) ・徒歩10分圏内に商業施設あり(スーパー、ドラッグストア等) ・夫婦の休みが合うのは日曜日だけ		検討事項
	夫	妻																	
勤務時間	8:00~17:00	9:00~18:00																	
通勤時間	車で10分	公共交通機関+徒歩 40分																	
生活に必要な事柄	就寝(起床)、料理・食事、仕事、掃除、洗濯、買い物、身の回りのこと、自由時間など																		
その他情報	・自宅は3LDKのマンション5階(14階建) ・徒歩10分圏内に商業施設あり(スーパー、ドラッグストア等) ・夫婦の休みが合うのは日曜日だけ																		
検討事項	家事分担・必要な事柄を済ませるための時間・休日の過ごし方 等																		
	② スケジュール作成について意見をまとめる		・スケジュール作成の課題等を共有させるとともに、固定的性別役割分業意識について認識させる																
	③ ライフイベントへの対応1		・生活を再設計する際には、これまでに学習した生活資源(リソース)の活用についても意識させる																
	④ ライフイベントへの対応2		・ライフイベントカードの内容と1日のスケジュールを他のペアに伝えてから、インタビューを受けさせる ・他のライフイベントへの対応とその課題についても理解を深めさせる																
まとめ	本時のまとめ	一斉	・実社会の状況をデータで把握する →約50%の人たちが仕事よりも家庭生活や地域・個人の生活を優先したいと答えているが、実際は仕事を優先している人が多い ・上記の社会的課題を理解した上で、ワークシートに本時のまとめをする <b>まとめ・考察</b> 1) このワークに取り組んで、分かったことや気付いたことを書きなさい。 2) 「自助」「共助」「公助」の観点を踏まえ、この社会でワークライフバランスを実現するためには何が必要かを書きなさい。	・データは「ワーク・ライフ・バランスの優先内容の希望・実際」(仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2019(内閣府))を使用 ・自分が働いた時、自分自身や一緒に働く人たちにも様々なライフイベントが起こることが予想されることも付け加え、思考を広げさせる															

**育成を目指す資質・能力①**  
【思考力・判断力・表現力等】  
事前に知識・理解として「家庭の機能の社会化(外部化)」、「職業労働と家事労働」「自助・共助・公助」の重要性等について理解を深めておくことで、その学びを実際の場面(スケジュールの作成)に活かし、お互いを尊重しながら、具体的な課題解決につなげる。

**※ICTの活用※**  
ペアワークを充実させる手立てとして、話し合いの途中でスケジュール作成におけるチェックポイントをスライドに提示する。  
**【チェックポイント例】**  
○食事は誰が作る？  
○掃除の頻度と担当は？  
○自由な時間は？  
○どちらかに負担がかかっている？  
○その生活で休日は休めそう？  
○この生活は持続可能？

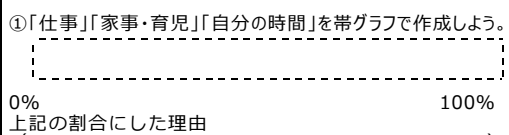
**育成を目指す資質・能力②**  
【関心・意欲・態度】  
○将来の家庭生活を具体的にイメージできるよう関心を高め、ペア活動に主体的に取り組ませる  
○社会的課題を理解し、他者の意見も踏まえながら、よりよい人生を送るための方法を多角的に考察させる

**評価基準等**  
【思考・判断・表現】  
ワークライフバランスの実現には個人の意識(自助・共助)と、社会的な仕組みの中(共助・公助)で解決していく必要があることを理解している  
<評価方法>ワークシート  
<評価C「努力を要する」と判断した生徒への手立て>  
夫婦のスケジュール作成やライフイベントへの対応の際に出てきた問題点・課題を中心に振り返らせることで、その解決のためには具体的に何が必要かを考えさせる

◆ ワークシート等の例

<例1>あなたの理想とするワークライフバランスは？

①「仕事」「家事・育児」「自分の時間」を帯グラフで作成しよう。



0% 100%

上記の割合にした理由 ( )

② それを実現させるために、何が必要か ( )

<例2>ライフイベントカード一覧とカード具体例

**ライフイベント番号の親の介護**

①(妻)妊娠4ヶ月  
②(夫)育児休暇中  
③(妻)産後休暇中  
④子育て 0歳  
⑤子育て 3歳  
⑥子育て 小1  
⑦親の介護  
⑧(夫)病気  
⑨(妻)ケガ

・夫の母親、要介護2(要介護1に近い状態)  
・夫婦の家に来て日が浅いが、生活にはなじんでいる  
・認知症の症状はなし  
・ゆっくりなら杖での歩行は可能  
・外出は楽しみの一つ/趣味は体操と裁縫  
・身の回りのことは時間をかければ自分で大抵のことはできるが、たまに支援が必要な場合もある

## Topic

### 家庭科の実習における「ICTの活用」について 家庭科の実習における「ICTの活用」について

#### ◆ ICTを活用し、実習における学びの重点化を図る「新たな学習スタイル」

Society5.0の到来など、大きな社会の変革期の中で、AI等の先端技術が、教育や学びの在り方に変革をもたらすことが考えられる。特に日常生活の様々な場面でICTを用いることが当たり前となっている生徒たちに、ICTを使用して膨大な知識や情報の中から必要なものを主体的に選び取り活用できる「情報活用能力」を身に付けさせ、情報社会に対応する力を育成することが急がれている。家庭科においては、資質・能力の育成において実験・実習が密接に関わることから、ICTを活用して、事前に撮影済みの画像や動画を繰り返し連続で表示することなどにより、効果的に実践的・体験的な学習活動を行うことができる。ここでは、「家庭基礎」の被服実習時においてICTを活用し、学びの重点化を図る「新たな学習スタイル」の展開例をあげる。

#### ● 家庭基礎の「被服」の授業において、学習指導要領に定める内容が効果的に指導できるよう、ICTを活用して学校の授業における学習活動の重点化を行う例（基礎縫い）

家庭学習においてICTを活用し、学習の重点化を図ることで、すべての生徒が授業開始後すぐに作品制作に取りかかることができ、効率的に生徒に必要な力を身に付けさせることが可能となる。また、一斉に作業に入ることができることから、手立ての必要な生徒を見極めやすくなり、スムーズな個別の対応が可能となる。

